

金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報



April, 2014 No.21

編集・発行／金蘭会東京支部（大阪府立大手前高等学校同窓会）
事務室／設案・阪本法律事務所内
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-7-2 みつわビル 3F
<http://kinran-tokyo.in.coocan.jp/>

新執行部誕生の総会

2013年7月21日（日）、都の西北早稲田の地、大隈庭園を眼下に臨むリーガロイヤルホテル東京にて第89回金蘭会東京支部総会が開催されました。

参加者は196名。大阪から金蘭会の石田副会長をゲストに迎え、例年通りの盛会となりました。

メインイベントはドイツで活躍中のヴィオラ奏者茨田通章（昭和57年卒）さんのミニコンサートでした。ピアノの伴奏で、ヴィオラ

新支部長に阪本清さん

小田切支部長、奥村副支部長とともに、東京支部を支えていた阪本副支部長、今年度より支部長として引き続きご尽力いただくことになりました。支部の事務室も、銀座にある設案・阪本法律事務所を設置させていただいています。

新執行部は少し若い世代に引き継がれました。「今年90回を迎える支部総会、長い歴史と伝統を今後につぎつぎと引き継いでいくよう、会員の皆様、よろしくお祈りします」と新支部長は語っていました。



金蘭会東京支部長
阪本 清

昭和42年 大手前高校卒業
昭和47年 京都大学法学部卒業
昭和49年 弁護士登録（第一東京弁護士会）
平成4～7年 最高裁判所司法研修所教官
（株）全農ビジネスサポート監査役 朝日信用金庫監事



総会壇上で挨拶する阪本支部長と新執行部

とソプラノサクソスから紡ぎ出された甘美な旋律に参加者は魅了されました。

今回の総会で、長年東京支部の発展に尽力された小田切支部長（昭和30年卒）と奥村副支部長（昭和30年卒）が引退され、阪本支部長（昭和42年卒）、北島副支部長（昭和46年卒）、竹村副支部長（昭和48年卒）が満場一致で選出され、新執行部が誕生しました。

当番幹事を終えて

意見章（昭和57年卒）

東京での新盆も過ぎた酷暑の中、第89回総会を開催しました。

今年は小田切支部長、奥村副支部長のご勇退セレモニーもあり、総会は厳かな中にも和やかに執り行われました。

続く懇親会では、ドイツでピアノ奏者として活躍の茨田通章氏にわざわざ帰国してもらったのミニコンサートを開催し、サクソスの演奏も交えとても素晴らしい演奏をご披露いただきました。

準備段階では、思いもよらぬ苦労もありましたが、当日は、心優しい諸先輩や後輩の心遣いと、同期の協力を得て何とか無事に総会を終えることができました。金蘭会という絆の強さに改めて感動をもらった一日でした。この絆を更に深め、広めていければと願う次第です。



東京芸術大学音楽学部器楽科卒業、ヴィオラを浅妻文樹氏、菅沼準二氏に師事。同大学大学院修士課程修了後、NHK交響楽団に入団。92年同団を退団、ドイツでの活動を目指す。ウィーンにて、以前より縁のあったヨゼフ・シュタール氏（ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席ヴィオラ奏者）に師事。94年からドイツ・デュッセルドルフ市のアンハルト・フィルハーモニー管弦楽団ヴィオラ奏者。最近はサクソフォン奏者としても活動している。

新しい楽器も披露した演奏

茨田通章（昭和57年卒）

久しぶりの日本での演奏、そして日本では初めてのサクソス演奏、楽しませていただきました。

裏話をひとつ。東京支部総会で演奏する話を頂いてすぐ、ヴィオラとサクソスを交えての選曲を考えたいのですが、困ったことが……

ここ数年、飛行機内への手荷物の持ち込みが厳しくなり、楽器は一つしか持ち込めなくなりました。考えた末、ちょうど買い替え時期だったサクソスを日本で購入することに。

成田に着いて楽器屋に直行。前もって選定したモデルとはいえ、慣れない楽器は吹き心地が違って、ん？やばいな。ホテルの部屋で練習すると、「うるさい」と苦情が。練馬の光が丘公園に行き、汗だくになって一日中練習しました。

新しい楽器との第一歩を披露できて、うれしく思っています。

「閉じた世界」から「開かれた世界」へ



オリンパス取締役会長

本本 泰行 さん
(昭和 42 年卒)

この写真は、昨年 9 月にハンブルクで開かれたオリ
ンパス・ヨーロッパ創立 50 周年を祝うレセプショ
ンで、挨拶をした際のものです。

一昨年の 4 月のことでした。35 年間の銀行員生活の
後、日本総研の社長も丸 6 年で退任する予定でしたの

で、そろそろ人生の次のステップをどうするか考え始
めようとしていた矢先でした。

外国人社長の解任劇や損失隠しの発覚といった、オ
リンパスを巡る一連の騒ぎについては、皆さんもニュー
スなどでよくご存知のことと思います。その会社の再
生のため、経営陣の一角に加われとの要請でした。私は
「人間は期待されているうちが花」という言葉を信じて
おり、迷わずお引受けすることにしました。その後、早
くも 2 年近くの時が経ちましたが、おかげさまでオリ
ンパス製品をご愛用頂いている皆様、従業員、さらには
フォロワーの市場環境にも支えられ、着実に会社再生の
ステップを積み重ねつつあるところです。

今回の事態で目立つのは、損失隠しが 10 年以上もの
長期間にわたり続けられていたことです。当事者がご
く少数に限られていたことが大きな原因ですが、そう

した事態を可能にしていた社内体制や企業文化にも大
いに問題がありました。自分の仕事には誇りと責任感
をもつて取り組んでいる一方で、周りのことには関心が
薄いか、自社のみに閉じこもり外部とは積極的に関
わりをもとうとはしない、いわば「閉じた世界」にいたこ
とが根底にあったのではないかと思います。

実は、こうした風潮は当社だけではなく、日本全体に
もあてはまるのではないかと感じています。今の世の
中が閉塞感に覆われているとよくいわれますが、その
原因は、何事につけ日本は特殊な存在であるとか、日本
でしか造れないものがあるとか、日本人にしか分から
ないものがあるといった日本異端(特殊論)にあるので
はないでしょうか。自ら外部との接触を避け、自分たち
だけの世界に閉じこもっているのです。海外で暮らし
仕事をした経験からすると、私には日本はごく普通の
国にしか見えません。異なった考え方や文化を拒絶す
るのではなく、オープンに向き合うことで、企業や国が
「開かれた世界」に変わっていかれると思います。

退官して転勤生活に終止符



前大阪高等検察庁検事長

北田 幹直 さん
(昭和 45 年卒)

かったものの、ある事件の捜査で、決定的な証拠を見つ
け出し、それまで「知らぬ存ぜぬ」と白を切っていた被疑
者に示した途端、その人物がその証拠を前に震えだし
て泣き崩れて自白するという場面に遭遇した。その情
景は 30 年余り経った今でも鮮烈な記憶として残ってい
る。

30 代にはミシガン大学留学と在米大使館勤務で 2 回
の海外生活を経験した。ミシガン大学時代の 1 年は「楽
しかった」の一語に尽きる。在米大使館時代には、日航機
墜落事故(1985 年)に関連して捜査共助要請実現の
ために米国司法省と交渉したことや、東南アジアから
米国への麻薬密輸に関わっていた東京駐在の外交官を
日本から米国に引き渡す方策について国務省・司法省
と緊密に協議し、最終的に引渡しを実現できたことが
強く印象に残る。

30 代後半から 50 歳までは東京勤務が続き、この間、東
京地検特捜部に 3 年半在籍して東京佐川急便事件や金

丸自民党副総裁脱税事件の捜査に関与できたことは今
となつて懐かしい思い出だ。

50 代最初の数年は、初代の外務省監察査察官として
不祥事調査や大使館等査察のため世界各地を飛び回
り、公安調査庁時代はオウム調査等を指揮する一方、国
内外の関係機関と情報交換に努めた。50 代半ば近くか
ら検察庁の長に就くようになると、在任期間は 1 年前
後となりまた転勤が増えた。検察官生活最後の 2 年間
は大阪勤務となった。社会を揺るがした検察不祥事か
ら 1 年余り後の着任で、課題や問題もあったが、生まれ
育った故郷で検事長として勤務できたことは光栄なこ
とだった。

検察官人生を振り返ると、転勤の多さはさておき、変
化と刺激に富んだ仕事に従事でき、誠に得難い貴重な
経験を積むことができたこと感謝し満足している。今後
は弁護士としてこれまでの経験を活かして、いささか
なりとも社会のお役にたてればと考えている。

昭和 49 年 京都大学法学部卒業 / 昭和 51 年 東京地検検事 / 昭和
62 年 在米大使館一等書記官 / 平成 14 年 外務省監察査察官 / 平成
17 年 公安調査庁次長 / 平成 20 年 千葉地検検事正 / 平成 21 年 公
安調査庁長官 / 平成 22 年 札幌高検検事長 / 平成 24 年 大阪高検
検事長

昭和 46 年 3 月 京都大学経済学部卒業 / 昭和 46 年 4 月 株式会
社住友銀行(現三井住友銀行)入行 国際企画部、米州本部、東海法人営業
本部、欧州本部等を経て / 平成 17 年 専務取締役役に就任 / 平成 18 年
5 月 株式会社日本総合研究所 代表取締役社長 / 平成 24 年 4 月 オ
リンパス株式会社 取締役会長

平 成 26 年 1 月 9 日付で大阪高検検事長を最後に退
官した。昭和 51 年 4 月、検事に任官したので通算
37 年 9 ヶ月の検察官生活だった。検察官在任中、転勤に
伴って引越をした回数は 17 回に及ぶ。30 代後半ま
では 2〜3 年毎に転勤・引越しを繰り返した。最も任期
の短い宇都宮地検での勤務は 4 ヶ月と 20 日だった。短



小田切 康幸 さん
(昭和 30 年卒)

同窓会は貴重な体験

昨年の総会で支部長を退任し、阪本さんに御就任いただきました。立派な方に支部運営をお願いするところが出来、安堵しております。

今、思い返すと、あれは平成4年の春だったでしょうか。突然、秋吉さん(当時東京支部長)と奥村さん(当時東京支部長)と奥村さんがお見えになり、支部長就任を要請されました。本当にびっくりしました。青天のへきいき77年の人生の間に何度かその思いに遭遇しましたが、思い返すとこの時もその一つでした。どうして私なのか、

生来のもぐさものである上に、社会に出て以来、地方勤務が長かったこともあり、当時高校の同窓会とは全くの無縁でありました。その上、折柄会社の役員に就任して3年目、それなりに仕事も忙しくなっていました。私は当然のことながら、

任にあらずと丁重に辞退を繰り返したのですが、御二方は意外に粘り強く、あの手の手と説得され、容易にあきらめない。そのうちに、ものぐさものの本性が出てきて、兄弟姉妹4人共大手前卒でもあり、まあ



奥村 弘一郎 さん
(昭和 30 年卒)

肩の荷を降ろして

今年(平成26年)の金蘭会東京支部総会が目前に迫った今日此頃、思えば自分達の学年が担当して開催したのがもう28年も前になるのに、つい昨日のこのようにその時の情景が思い出される。

同窓会というのは、直接的利害関係の無い、日常とは異次元の人間関係であり、自分の人生に広がりや彩りを与えてくれるものとして、私はそれを大事に思い、各種同窓会には積極的に参加するように努めて来た。

特に大手前高の同級生とは、小中学校或いは大学時代の友人とは異なり、青春人口の微妙で純粋な関係の、得難い友人であり、今もそのまま大事に付き合うように努めている。

ところで、私が金蘭会東京支部の幹事のお役目を拝命したのは、当時、中村名誉支部長と秋吉支部長というお二人が元気に活躍されていた頃であった。それに続いて、小田切前支部長とは私が副支部長として、平成4年から何と22年間という

長い間ご一緒させて頂いたことになる。その間、多くの先輩・同輩・後輩の皆様から御懇意を頂いたことに、限り無い感慨と感動を覚えると共に、心から感謝を申し上げる次第である。

そして何よりも、この素晴らしい金蘭会東京支部が、ますます会員の交流と母校への貢献を深め、今後とも阪本新支部長を中心に一致結束して、皆様が御活躍あらんことを切に祈り上げたい。

文月来て

金蘭の香の湧き出づる

弘一郎

昭和30年 大手前高等学校卒業
昭和35年 東京大学経済学部卒業
昭和47年 東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和56年 医療法人仁愛会歯科理事長
平成7年 学校法人維持学園評議員
現在 医療法人仁愛会歯科顧問
平成4年より平成25年7月
金蘭会東京支部副支部長

お二人との思い出

心からの感謝を

入澤 光世(昭和38年卒)
わたしが金蘭会の役員になったのは卒業後30年という節目の総会の後でした。

秋吉支部長、中村名誉支部長という金蘭会東京に熱い思いを持ちつづけていた先輩の元、「役員は手弁当でお世話を」と教えられた時代でした。

その後京都に帰られた秋吉支部長の後に任命されたのが小田切支部長でした。

小田切支部長に初めてお目にかかった時何故か懐かしいお顔とお話したら、同級生のお兄様でした。

妹さんにそっくりな内裏雛のようなおっとりとした風貌そのままに、同窓会では常に穏やかにどっしりと構えて若い世代、中堅世代、をうまくまとめてくださいました。会社では厳しい方と伺っていたのですが、同窓会では私達役員は「殿」と陰で呼ぶくらい優しく、「良きにはかえ」的に理解が有り、頼りになる存在でした。

奥村副支部長は秋吉支部長の時からずっと支部長を支える存在として、小田切さんの時は同級生として名コンビで、いつも素敵な存在でした。

大先輩たちにビールを注ぎながらお話をなさり、皆様の笑顔を引き出す名人でした。

私の同級生たちにも親しくお声をかけられ、みんな奥村先輩のジョークがいつ出るかとハラハラわくわくしながら待ち構えたものでした。

総会終了時の3本締めも奥村さんならではの芸当でした。

私たちの期待以上の長い任期を支部長、副支部長として務め上げて下さったお二人に心からの感謝を捧げたいと思います。

Information

●仲間募集…「二子玉会（にこたまかい）」

東急田園都市線二子玉川駅周辺で、異学年交流のできる気軽なランチ会です。昨年は10月6日(日)玉川高島屋の洋食「MIYASHITA」で開催されました。初参加1名を含む20名が、前回の東京オリンピックの話や、同学年カップルがゴールインした話、しなかった話で盛り上がりました。

今年も10月の土日に開催予定です。金蘭会に関係する方なら、どなたでも参加できます。お問い合わせ、申し込みは竹村まで。

連絡先: 竹村 泉(昭和48年卒) ☎045-984-6362
E mail: 426izumi-t@e08.itscom.net



●支部会費

年会費として千円、終身一括払いとして一万円をお願いしております。既に終身一括払いをされた方は赤色の払込用紙が同封されていないはずですが、もし万一同封されている場合は、お手数ですが支部までお知らせください。

●3行広告、原稿募集

出版本、個展、講演会、講習会、教室等の有料広告のほか、ご意見、エッセイ、趣味やペットコーナー等原稿も募集しています。

●金蘭会東京支部ホームページ

<http://kinran-tokyo.in.coocan.jp/>
支部の最新情報をご覧になれます。

東京支部へのお問い合わせ、メールアドレスの登録や変更もホームページからお願いします。

News 2013年グッドデザイン賞受賞



「明治学院大学図書館附属日本近代音楽館」

島崎義治さん(昭和50年卒)

明治学院大学図書館をリニューアルした「日本近代音楽館」内部にステンレスプレートのボックス、型ガラスを組み込んだ家具としてのスクリーンで光の織りなす空間を作り上げました。この作品の見学会を計画しています。山田耕筰や武満徹など日本を代表する作曲家の自筆楽譜なども見学できます。日時など詳細については、徳野千鶴子(昭和50年卒)まで。電話:090-8512-2220 Email: chiko-t@j02.itscom.net

本を媒体としたコミュニケーション活動「まちライブラリー」

磯井純充さん(昭和52年卒)

「まちライブラリー」は、メッセージを付けた「本」を持ち寄り、「人」と出会うという活動です。磯井さんは提唱者の一人。「本」を媒介に人と人とのつながり、街のコミュニティづくりをめざしています。東京、大阪を中心にまちのカフェやオフィス、お寺や病院、大学施設など全国70カ所以上に「まちライブラリー」が設置されています。

興味のある方は磯井さんまで。Email: MSJ00657@nifty.com



東日本大震災をきっかけに我が家も昨年やつと太陽光発電を導入し、「小さなうち」の屋根に21枚のパネルを取り付けました。現在、日中発電した

「ソーラちゃん、おはよう」私の朝は点滅を始めたソーラーパネルのモニターへの挨拶から始まります。

家庭で実践、これからのエネルギー対策

会員だより

村上由利(昭和50年卒)

うち約2割を使用し、8割近くは売電しています。将来蓄電池を導入すれば、夜間も賄えそうです。地震国日本は、これから徐々に自然エネルギーにシフトしていくことでしょう。

晴れの日はかりではなく曇りや雨の日まで発電するソーラちゃん。新築、改築をお考えの方は太陽光発電を計画されてはいかがでしょうか。

また、エネルギー節約の折、友人に勧められて「ほんわか帽子」という物を購入しました。温めたお鍋に被せて保温し、余熱で最後まで調理するための帽子です。災害時は防災頭巾にもなり、内ポケットに入っているアルミシートにくるまれば寒さをしのげるという優れものです。猫用ベッドにも(?!).

この帽子は南三陸の被災者の女性たちが作成していて、諸経費を除いた残りが支援金になります。

東京市内各所から、私たちは日々の暮らしを支えるための物資を調達しています。日々の生活を支える物資を、日々集めています。日々集めています。日々集めています。

この「ほんわか帽子」は、宮城県南三陸町の被災者の女性たちが作成しています。被災地から支援物資を送ることを目指しています。(販売価格 3500円)

ご注文・お問い合わせは、
【ほんわか帽子の会】
E-mail: kinran@home.ne.jp
Tel: 090-6926-9218
振込先: 中央労働金庫 新百合ヶ丘出張所
普通 3780267 (口座)

●支部会計報告(平成24年度)(平成24年1月1日~12月31日)

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越	6,396,504	総会補助費	292,839
支部会費	412,000	支部運営費	187,194
(内訳)		(内訳)	
終身会費分	320,000	会議費	14,674
年会費分	92,000	事務所用料	60,000
		会報印刷代	47,100
雑収入	0	通信費	3,720
貯金利息	363	HP費用	22,680
		雑費	39,020
		次期繰越金	6,328,844
合計	6,808,867	合計	6,808,867

編集後記

小田切先輩、奥村先輩、お疲れさまでした。新役員もお迎えして、役員会、若々しくなりました♪

我が家のペット

3年前、家内が近所で雌雄の子猫を保護、七夕の頃だったのでヒコとオリと名付けた。さらに雄の黒い子猫2匹(クロとロク)を見つけ、ノラ4匹は我が家の飼猫に。帰宅時ヒコ、クロが出迎え、寝る時は階段の上まで、いつもオリが見送ってくれる。オリよ、今夜もありがとう。気持ちは、モーザルトのピアノソナタ、ハ長調 K545 第二楽章 アンダンテ、それではおやすみなさい。

岡 幸夫 (昭和46年卒)

Bear (12歳くらい)

菊丸 (12歳)



僕は岸宗家の長男菊丸。箱入り猫で、たまに脱走したら、シャンプーのお仕置き! シャイで、獣医さんのカルテには「吹き猫」だって、失礼でしょ。隣の黒いのは犬の Bear 公。黒いからって、安直すぎるよ。下のお姉ちゃんが大阪に行ったら、代わりに Bear 公が飛行機に乗ってやって来た。年齢不詳で、やたらお行儀が良くて、吼えもしなかったのに、今や完全なダメ犬、ババのせいらしい。

岸宗 裕美 (昭和49年卒)

